

平成21年度  
砂つけ試験

実施計画書（案）

平成20年5月

# 目 次

	頁
1. 試験目的 -----	1
2. 確認項目 -----	1
3. 試験場所 -----	1
4. 試験の実施フロー -----	2
5. 試験期間 -----	2
6. 砂の投入 -----	3
7. 試験項目と内容 -----	4

## 1. 試験目的

塩浜1丁目隅角部の静穏域を利用して、砂を投入した場合の砂の挙動と、そこに現れる生物相を確認し、今後の護岸バリエーションの検討に活用していく。

## 2. 確認項目

確認項目は以下とする。

砂の挙動

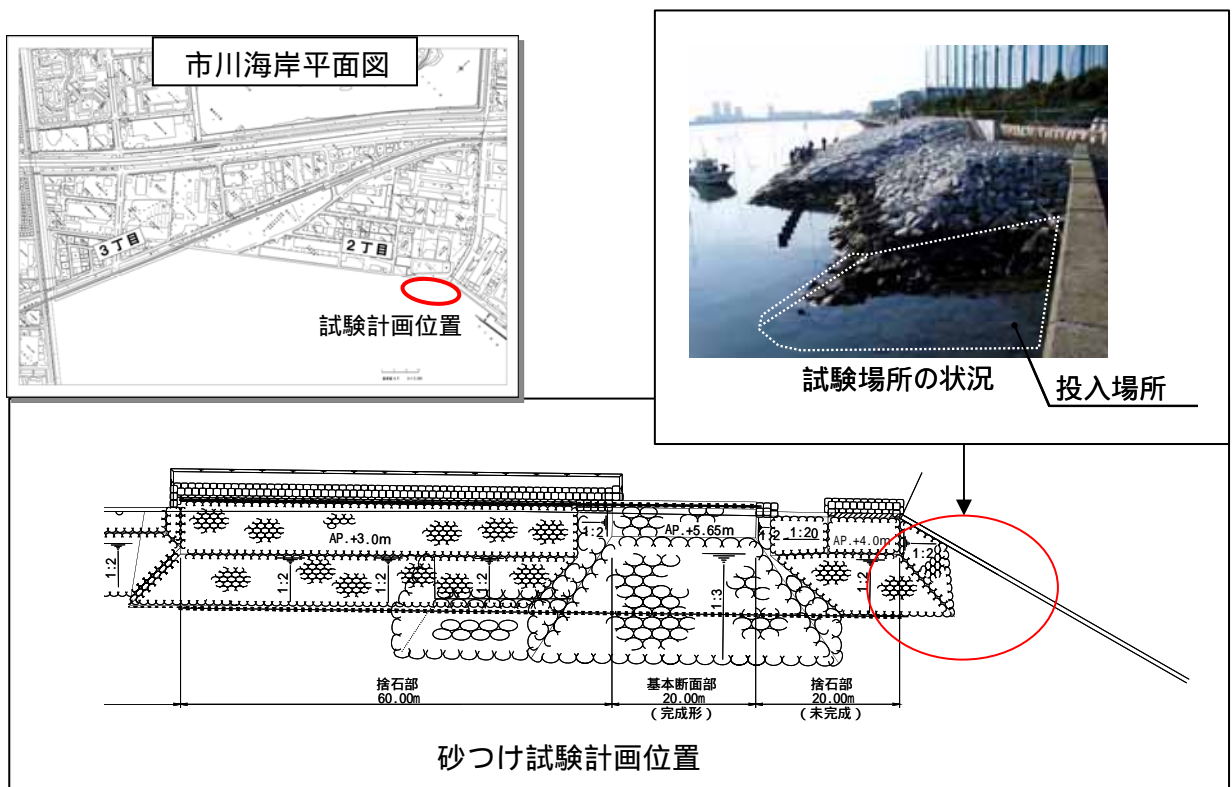
- ・ 測量によって変状を確認する。

生物相

- ・ 生物調査を行って、どのような生物が確認されたかを整理する。  
(砂地の良好性についてはアサリで確認するものとする)

## 3. 試験場所

試験場所は塩浜1丁目隅角部とする。



#### 4. 試験の実施フロー

試験の進め方は以下を考えるものとする。



図4-1. 砂つけ試験の実施フロー（案）

#### 5. 試験期間

本試験の試験期間は以下を考えるものとする。

自：平成21年6月 ~ 至：平成22年5月

## 6. 砂の投入

置き砂の投入概要を以下に示す。

### ①投入量

- ・隅角部の規模を考慮して100m<sup>3</sup>程度とする。

### ②砂の調達

- ・近隣の海浜、または一般土木資材として調達する。

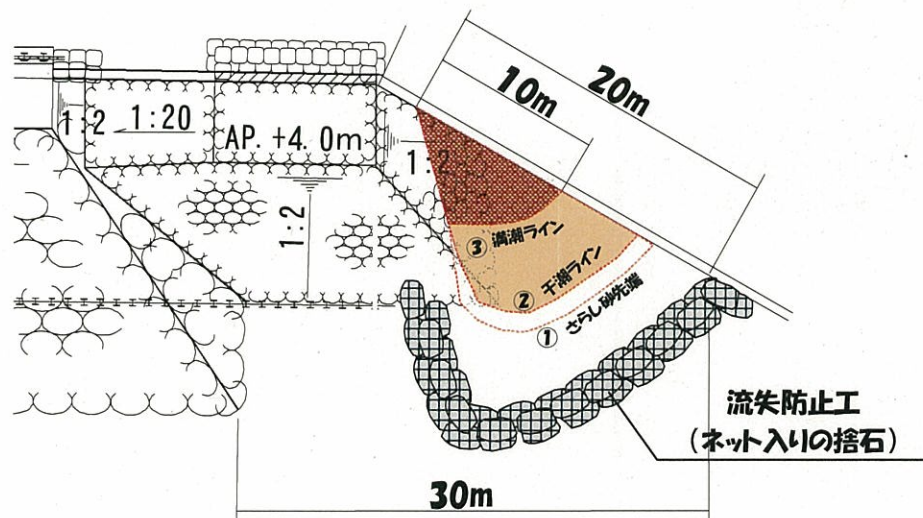
### ③投入時期

- ・6月の大潮時に公開で実施する。

(大きく潮が下がる時期に、投入前の観察を行った上で投入する)

### ④投入概要

- ・以下の要領で投入する。

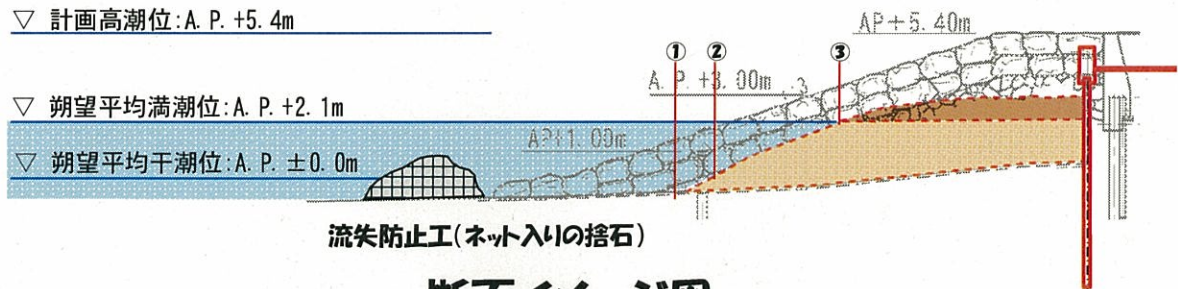


平面イメージ図

▽ 計画高潮位: A. P. +5.4m

▽ 朔望平均満潮位: A. P. +2.1m

▽ 朔望平均干潮位: A. P. ±0.0m



断面イメージ図

## 7. 試験項目と内容

### (1) 砂の性状調査

本試験に用いる砂について土壌分析、粒度調査および生物確認試験を行う。

### (2) 観察

砂の投入後、現地の観察を行う。

実施する観察内容等について表7-1に示す。

### (3) とりまとめ

とりまとめは以下について行うものとする

置き砂の変形経緯

生物観察結果

表7-1 砂つけ試験の観察計画（モニタリング）

区分	項目	目的	方法	時期（間隔）	数量等
検証項目	置き砂	<ul style="list-style-type: none"> <li>隅角部の微地形の変化の把握</li> <li>浅場（砂）形成の可能性の把握等</li> </ul>	投入	春季：6月（H21）	・大潮時に実施
			地形測量	年2回＋イベント（台風等の高波）後 モニタリングと同時期	・置き砂投入範囲の中で4地点
			生物観察	夏季：9月（H21） 冬季：1月（H22） 春季：4月（H22） の年3回 モニタリングと同時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>方形枠（50cm×50cm）による目視観察</li> <li>潮間帯で1箇所</li> </ul>
検証材料	波浪・流況	物理環境への外力（波、流れ）把握を目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>波高・波向の計測</li> <li>流れの計測（海底面上約1m）</li> </ul>	波高・流速計の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月と10月</li> <li>3月と4月</li> </ul> 最長60日 ×2回/年	・測線No.82の護岸前面の1箇所（30日～60日連続観測；目的とする外力が把握される時点までとする）
	青潮時の溶存酸素量測定 生物環境への外力把握を目的とする。	DO計による測定	青潮発生時	・第1工区の完成断面石積のり先。未施工区間の直立護岸前面	